



古式ゆかしく渡り初め

広報

ひがし しらかわ

1991
平成3年

7

No.364

発行 東白川村・編集企画課
岐阜県加茂郡東白川村神戸
〒509-13 ☎05747-8-3111
印刷 下呂印刷株式会社

人口の動き

—6月末住民登録人口から—

世帯数	907世帯
人口	3,478人
転入	2人
転出	9人
出生	2人
死亡	3人

先月と比較して8人減
昨年同月と比較して
14人減

674歳の渡り初め

渡り初めと言えば、必ず話題になるのが三世代夫婦、このほど行われた「大沢橋・宮代橋開通式」の晴れ舞台に登場された、柏本の古田眞之助さんご一家と村雲行雄さんご一家の二家族六組の夫婦の合計年齢がなんと674歳。

さらにこの三世代の後継者となる小さなお子さん三人を加えれば、680歳以上とまことにめでたい渡り初めでした。（関連記事8ページに掲載）



大沢橋のテープカット

が出ました!

「30件」これは、昨年1年間の母子センターでの出産数です。昨年は、月平均3人に満たなかったのですが、この6月は6件の予定が入ったそうです。人口増加のために喜ばしいことです。昨年10月1日の国勢調査結果をもとに、今月は、人口問題について考えてみましょう。



7月2日 安江友美さん(日向) 三見目を無事出産

不安定なピラミッド

ピラミッドをご存じですか。石やレンガを積み重ねて作った四角すいの建物で、古代エジプト国王のお墓です。最大のもは、クフ王のピラミッドで、高さが百四十六メートルもあります。さて、このピラミッドの形を思い浮かべてみて下さい。

中央にあるグラフは、「人口ピラミッド」と言われるものです。人口を年齢階層別、男女別に分けて表したグラフです。

エジプトのピラミッドの形は、長期安定形と言われます。私たちの村は、どうでしょう。「頭でっかち型」と呼ばれ大変、不安定な形となっています。

ふるさとを嫌いなもんはおらん

私たちの村の人口、三千二百二十三人、そのうち全体の二三・三%を示めるのが、高齢者、つまりお年寄です。

「自分の生まれ育った土地を嫌いなもんは、おらん」これは、あるお年寄に村の人口の現状を尋ねてみたところ、開口一番帰ってきた答えです。特にお年寄は、若い世代が、村に居着かないことを、心配しています。

自分達のかわいい孫が、中学を卒業と同時に高校へ進む。白川高校なら通学は可能ですが、遠くの学校へ進学すれば、下宿をせざるをえない。

また、就職問題でも、職場を都会に求めている現状を考え、就職口、交通の便

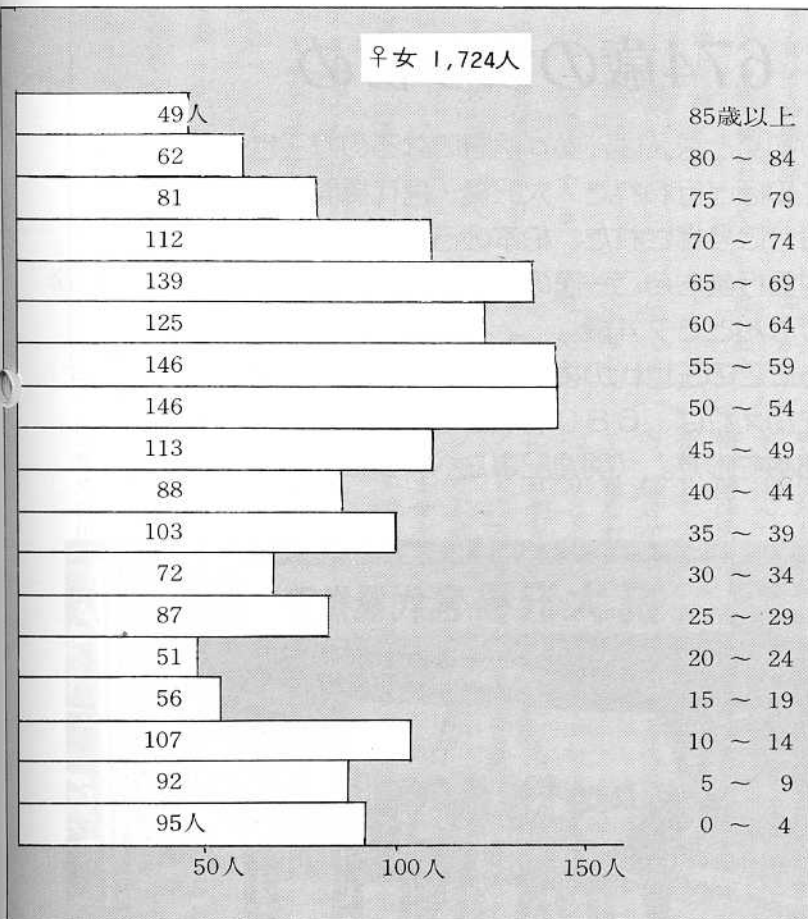
の二点を若者が居着かぬ問題点として挙げて下さいました。「都会にはない魅力が、村にはあるはずですよ。考え方までが老け込んでしまいう前に、若い人が住みやすいように、若い人の考え方をどんどん取り入れることが大切です。」

活気ある村づくりには、若い人の考えや若い人の力は、絶対不可欠なのです。

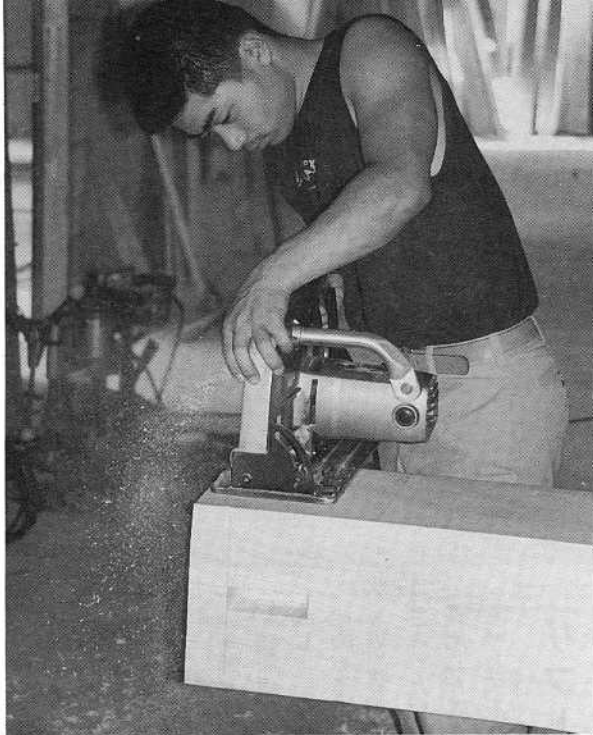


「若い人が少ないのは、さみしいねえ」

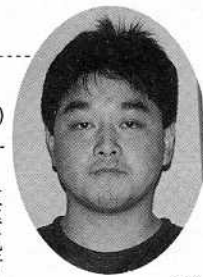
ピラミッド



国勢調査の結果



プレカットで働く高木誠さん (22・黒瀨)



佐藤克行さん
(23・陰地)

住んでみれば
思ったほど……
「実際、村に戻って住んでみれば、思ったほど不便じゃないです。」と語ってくれたのは、Uターンをしてプレカット工場に勤める佐藤克行さんと高木誠さんのお二人。「確かに給料の差はあっても、家から通勤できるので苦にならないし、道が以前より、良くなっているの、遊びに出るにも短時間で行くことができる、就職時期に、もっと積極的

な求人活動を見直す機会となつていいのでは。」とのこと。また、若者が、職場に望むこととして、「休みの問題を挙げてくれました。高校卒業と同時に、岐阜部品に就職した安江利修さんは、卒業と同時に村に戻ることに對し何のためらいもなかったようですが、若者にとっては、遊ぶ場が少なかったり、商店が早く閉まったりすることが、住みづらくしているのでは、との具体的な意見を出してくれました。

話の中心が、若い世代の人口減少になってしまいました。お年寄が生きがいを感じ、若者が魅力を感じる村づくりのため村では、村内企業との話し合い

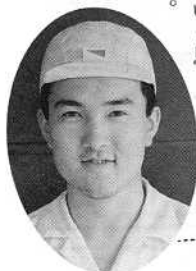
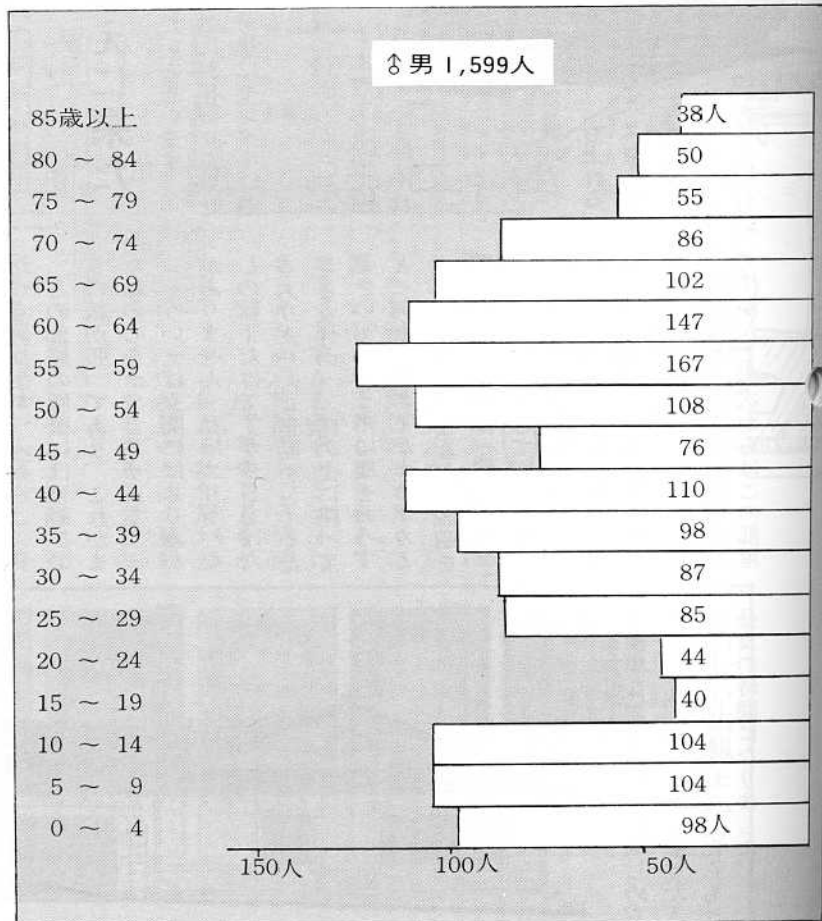
魅力ある村をめざして

どうやら、外から眺める村と実際に住んでみる村とは、食い違いがあるようです。

による賃金、休暇の問題解決、施設の整備などに力を入れ、若者の意見を尊重し、ふるさとセンターを中心に村おこしの活動に力を注ぎたいと思

安江利修さん
(22・加舎尾)

東白川村人口



ちよつと
早いけど……

高齢者生活福祉センター 架空体験記



たたみの部屋でのんびりと(加子母村デイサービスセンター「やすらぎ荘」)

高齢者生活福祉センターが着工されました。建設場所は東白川病院東隣りで、来年二月には完成し、一か月程度の準備期間を経て三月から利用を始める予定となっています。そこで、ちよつと気の早い感じもありますが、「Aさん」というお年寄りが、このセンターをはじめ利用したときの気持ちを想像して、「架空体験記」として書いてみました。

リフトバスが迎えに来た

今日は私たちの村にできた高齢者生活福祉センターを、はじめて訪れる日です。朝からソワソワして待っているリフトバスが迎えにやってきました。私はどうか身体の不自由はないけど、このバスは車いすのまま乗ることが

できるの、たい

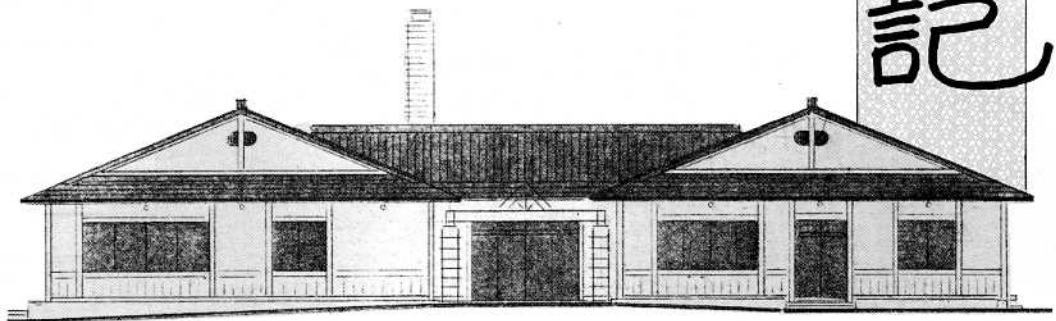


リフトバス

へんありがたいと思います。途中で順番にお年寄りを乗せながら三十分後にセンターに着きました。玄関で職員の皆さんがニコニコ顔で迎えてくれました。一歩中へ入ると車いすでも上れるスロープ。その向うのガラス越しに右

を置いた中庭が見え緊張した私の心がホッと和みます。広い廊下を左へ歩いて、カーペットを敷いた広い部屋に入りました。片隅には十畳ほどのたたみの部屋もあり暖かそうなたつもあります。この部屋の腰壁には東濃ひのきの板が張っており、これがまた私の心をホッとさせます。そういえば玄関にはスリッパがありません、私はスリッパなしの靴下だけです。少しも冷たくありません。世話をしてくださる女性の、「床の上に座って下さい」という声に腰をおろすと、何とお尻の下がポカポカとすることはありませんか、説明を聞くと、この部屋(機能訓練室)と隣の食堂、そして廊下や浴室、脱衣室まで、全部床暖房がしてあるとのこと、これは私たち寒がりの老人にはほんとうにありがたい設備です。今日は初日ですから説明だけです、この次からはこの部屋

で簡単なゲームなどを楽しめるそうです。久しぶりに会った人たちと世間話をしていたらもう昼食の時間になりました。



何といっても楽しいは、食事と入浴

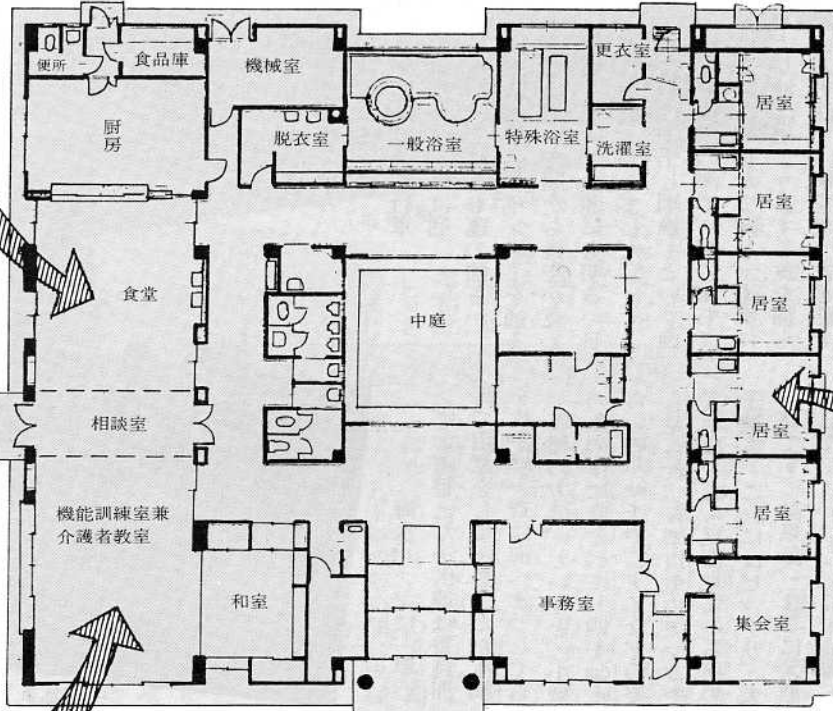
食堂は広びろとした部屋に清潔なテーブル、その上にはもう料理が並べられています、どれも作りたて、中には湯気が立っているものもあり食欲をそそります。

今日のはじめての利用を祝って「赤飯」と暖い中華風のお総菜という日中友好メニューでした。

さて次の楽しみは入浴です。午前中には女性がすでに済ませているので、午後はわれわれ男性の番です。

床暖房が効いているので裸になってもそんなに寒くありません。一度に五人ということでしたがもつと多くても良いほどの広さに浴そうが二つ、風呂といつてもただの風呂ではない、泡

良いこと。小さな円型の浴そうは薬草風呂にもなるとか、菖蒲湯の季節が待ちどおしい気分です。



やジェット水流が心地よく身体を刺激して何と気持ちの

食欲も湧いてきます

一般浴室の隣には身体の不自由な人が寝たまま入浴できる特殊浴室があり、寝たきりのお年寄り

もこの施設を利用して、ふれあいを持つことができるのが大きな特徴となっているようです。また寝たきり老人をかかえる



センター内に五室ある部屋には一人暮らしの身体のお年寄りが入居もできるそう、老人の多い私たちの村にとって、このうえない施設と感心しながら帰宅しました。

家庭では家族は揃って家を空けることもできませんが、そういうとき短い期間このセンターに預けてもらうこともできるそうです。ですからこのセンターは老人のための施設であると同時に、その老人をかかえる壮年層、若年層のための施設でもあると言えますでしょう。

新しい広報モニターの皆さん



小池万智子さん (大沢)



額額英雄さん (柏本)



桂川一喜さん (陰地)



安江登美子さん (陰地)



安江純愷さん (下親田)



神戸啓子さん (平)



河田重喜さん (西洞)

今年度から読者の広報窓口となつていただく「7人の侍」です。情報をお寄せ下さい。

体験！ 楯干し網漁

たてぼ

香良洲町交流事業

平成元年六月に始まった三重県香良洲町との交流事業が二年を経過し、三年目を迎えた本年度、今までの交流成果を土台にしてさらに、一歩前進することとなりました。

その一環として、六月二十五日に東白川小学校、五、六年生九十三名が、香良洲町に古くから伝わる「楯干し網漁」を香良洲小の児童四百三十人とともに体験学習をしました。朝、六時に東白川を出発する際は、香良洲町と雨交じりの天候。皆さんが一緒に傘持参の姿で出発することとなりました。しかし、大雨警報が出ない限りは決行するという強い決意の強行軍の気持ちで、天に通じたか、それとも運の強さか、三重県の桑名のインターを通る頃には雲の合間から青空が見え始め、子供達の顔にも明るい日差しが戻ってきました。

この「楯干し網漁」という漁法は、遠浅の海で、潮の満ちている際に網をたて直し、退潮により沖に出ようとすると魚を捕らえる方法で、網を使った漁法としては、最も古典的なスタイルのもので、香良洲町の海は、すでに初夏の感じが漂っています。



海までまっしぐら



可茂消防職員を募集します

可茂消防事務組合では、平成四年度の消防職員を募集いたします。

- 一、受験資格
 - (1) 高校卒業（平成四年三月卒業見込みを含む）以上の男子で平成四年四月一日に満二十二歳以下の者。
 - (2) 可茂消防事務組合管内に居住する者で通勤可能な者。
- 二、受験手続

消防本部総務課及び各出先機関で受験申込書を受け取り、履歴書・戸籍抄本・成績等調査表・診断書・写真を添えて、消防本部総務課まで提出して下さい。

三、受付期間

七月五日から七月二〇日（日曜日を除く）の午前八時三〇分から午後五時（土曜日は正午）まで。

おしらせ

歌会始のお題は「風」詠進歌受付

平成四年歌会始のお題は「風」と定められました。

- ① 詠進歌は、自作のもので一人一首とし、未発表のもの。
- ② 用紙は、半紙（和紙）とし毛筆で自書のこと。（但し、病氣又は身体障害のため自書のできない場合は、別紙に代筆の理由、代筆者の住所、氏名を書いて詠進歌に添えて下さい。）
- ③ 書式は、半紙を横長にし、右半分にお題と歌、左半分に郵便番号、住所、氏名（本名、ふりがな）、生年月日、職業を縦書きで書いて下さい。（無職の場合、単に「無職」でも差し支えないですが、なるべく元の職業を書いて下さい。また、主婦の場合、単に「主婦」でも差し支えありません。）



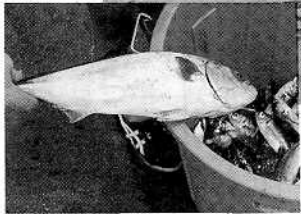


昼食は、香良洲公園にて、香良洲小の児童達といっしょになつて捕れたての魚でなべを囲みました。疲れを知らない子供達、昼食後は、いっしょになつてのゲーム、忘れられない一日でした。

帰った後も、

クラスの後表が、お礼の作文を出すなど、子供達の交流は、いよよいよ本格化してきまし

「おっ！いるいる、今日は大漁だ」



ハマチにギョッ！

海・山・ふれ愛の森造成へ

桶干し網漁のお返しというわけではありませんが、海の町香良洲町と山の村東白川村の間では、交流事業の一環として、村内に「haの「海・山・ふれ愛の森」を造成することになっており、この日その覚え書きが交わされました。

これは、香良洲町が費用を負担し、東白川村に「ふれ愛の森基金」を設け、この基金から造成費用を出し、村が植樹から伐採するまでの全ての作業を行うものです。

また、この事業は、両町村の協定によって実施されることになっており、その協定期間は、五十年でその間に伐採により収益があった場合は、八割が香良洲町に、二割が地代として村の収入となります。

香良洲町は、伊勢湾に面して雲出川下流の三角州にあり、山が全くない町です。この事業には、関係者も大きな期待を寄せています。

秋十月、山が色づき始める頃には、海・山・ふれ愛の森造成植樹に香良洲中学校の生徒が、来村する予定です。また一歩、両町村の友好関係は深まりそうです。

図書コーナー

「ゲームの達人」上下



シドニイ・シェルダグン著
物語の大きさに圧倒されながら、こんなにも著者にあひかれた自分は初めてである。会ってみたいと思わせる著者、その想像力は想像以上にスゴイものだと感じる小説。一読に値しよう。推薦人(45歳・男)

「母胎流転」

著者は医者ということもあって比較的病気の話が多い為、自分なりの知識を得ることが出来る。この話も思わず目をふせてしまいそうなる生々しいシーンが出てくるが同じ女性として大変心を震わされた。
推薦人(25歳・女)

渡辺 淳一著



夏の交通安全 県民運動の実施

「ゆずりあう心で、夏の交通事故防止」をスローガンに、夏

④ 詠進期間は、九月三十日まで。(郵送の場合は、九月三十日消印有効)
⑤ あて先は、「〒100東京都千代田区千代田一番一号 宮内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書き添えて下さい。
そのほか詳しい詠進要領は、企画課振興係までお問い合わせ下さい。

の交通安全県民運動が、七月十一日から七月二十までの間、県下一斉に行われます。
今年に入ってから交通事故は、多発しており、昭和四十九年以降最悪の死者数を記録した昨年とほぼ同じペースで推移しています。
子供たちにとっては、待ちに待った夏休みが目前に迫り、気持ちの緩みやすい時期です。子供たちが楽しい夏休みを過ごせるよう、ハンドルを握ったら安全運転を心掛けましょう。また、家庭では、これを機会に今一度交通安全について家族みんなで話し合ひましょう。

植物

ひとよ
一夜限りの美しさ



ひと花咲かせます。

サボテンの種類をこ存じです。品種改良を重ね、現在、サボテン科は百七十属千二百種以上に分けられているそうです。サボテンの花で、夕方咲き、朝にはしぼんでしまう花があります。柏本の近藤富雄さんが作っている、このサボテンもその一つです。調べたところ、南米産のロビビア系のものだそうです。本当に神秘的な花です。

交流

この勢いを中京村人会にも



おなじみの顔がそろいました。

東京東白川クラブ総会が、六月九日東京上野で行われました。出席者の話題の中心は、何と云っても村の近況。また、中京村人会発足の話には、村人会とおしの交流を、といった声も。「これからは、若い人たちとの交流も実現したい」と村出身のみなさんは意欲満々。八月には、「里帰りツアー」も計画中だそうです。

渡る

「明日に架ける橋」 二橋同時開通



一步一步踏みしめて

前日までの梅雨空が、うそのように晴れ渡った七月六日、「五加バイパス大沢橋・宮代橋」の開通式が行われました。今回開通をした、五加バイパス大沢橋と宮代間には、「よこびき」の難所があり、道幅も狭く車の行き違いには、苦勞をする問題の多い場所でした。この開通によって五加バイパスの四分の一が、通行できるようになり

ました。午前十時からの神事、記念式典、テープカットといった諸行事の後、古式にのっとって三世代夫婦を先頭に、「渡り初め」が行われました。この日、晴れの三世代夫婦は、柏本の古田眞之助さんご家族と村雲行雄さんご家族。村雲利市さん（行雄さんのお父さん）は、今年八十八歳。こ

んな、おめでたい席に出席させていただき、本当に有難いことです」と感激の気持ちを語って下さいました。また、この渡り初めには、五加保育園の園児たちも、元気に参加、日の丸と村章の小旗をふって、式に色を添えました。なお、五加バイパスは、平成四年に下野橋、五年に柏本橋ができ、六年に完成の予定です。

■戸籍の窓 六月 敬称略

誕生おめでとうございます

(大口) 古田 昭則(昌也) 恵子(三男)

(上親田) 安江 一郎(祥子) 恒子(三女)

いつまでもおしあわせに

(田口) 丞(白川町)

(新田) 悦子(中通)

(古田) 正貴(下野)

(田口) 忠美(平)

おくやみ申し上げます

安江 矩雄 55歳(柏本)

安江つたゑ 86歳(大明神)

若井よしの 82歳(平)

■善意の寄付 敬称略

〔社会福祉施設整備指定寄付金〕

現金五万円 安江敏之(柏本)

現金五万円 村雲かな(中通)

(病院医療機器購入資金)

現金十万円 若井新一(平)

(東白川小学校へ)

カリン 今井三郎(西洞)

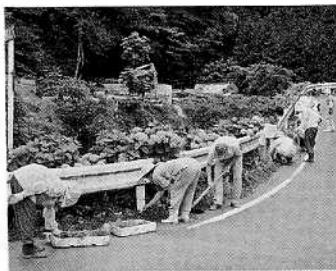
猿はく製 安江清(中通)

竹ぼうき十本 老人クラブ寿

奉仕

道・花・ボランテイヤ

「村を花でいっぱい。」六月二十三日、老人クラブ連合会の



道路は色とりどりの花ざかり

年間事業の一つ県道脇の花苗の植えつけが行われ、約二百八十人の参加者が気持ちのよい汗をかきました。

各会ごとに丹精込めて作られた、マリーゴールド、ケイトウ、サルビアの苗が、商工会婦人部の協力を得て、整然と植えられ県道の脇はあでやかにドレスアップ。お年寄りの社会奉仕活動でした。

く 泳

夏本番！
プールでハシヤグ五加園児

「どいて、どいて」と叫びながら足からドボン。



つめたーい！でも楽しい

七月八日、五加保育園で望望のプール開きが、行われました。

前日までの夏本番のような暑さとは、打って変わって朝から今にも泣き出しそうな天気になりましたが、園児たちにとっては、まったく関係なし。

昨年までは、大型のプールがなかったこともあって、この日は、あたかも「水を得た魚」のようなハシヤグぶりでした。

解禁

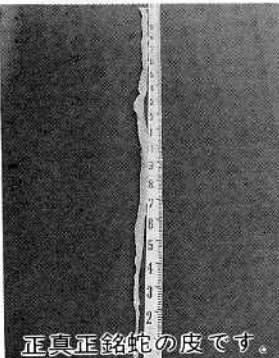
雨天、多いに決行
(大いに結構)

六月三十日は、大公望たちが、指折り数えて待っていた鮎解禁。

ところが、皮肉なことに前日の夜は、梅雨前線の影響をもちに受けて大雨警報まで出される最悪の天候となってしまうました。

しかし、そこはさすがに大公望、普段より川がかなり増水しているにもかかわらず、胸までつかって大奮闘。

白川の夏の風物詩は、大公望にとって特別な季節のようです。



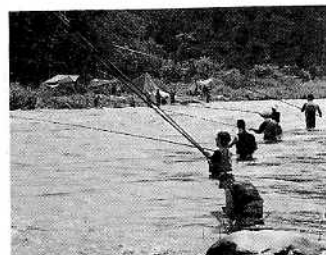
正真正銘蛇の皮です。

毎日、「暑い、暑い」と言っている皆さんに、少し涼しくなるような話題をお伝えします。

体長二メートル五センチ。こんなヘビが、草むらから突然出てきたら、あなたならどうしますか。

下親田の安江純君(東白川小学校五年生)が発見したヘビの皮は、長い長いなんと二〇五センチ。ニシキヘビ並の大きさです。

ツチノコ人気に怒ったヘビのお話でした。



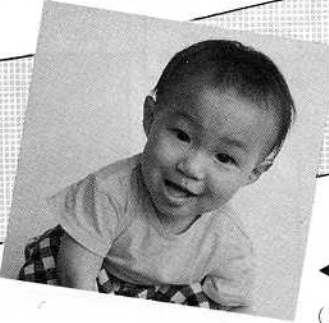
多い日は胸まで漬かって

- 会▼ぞうきん七十枚▶婦人会 神土支部
- (越原保育園へ)
- マリーゴールド五十本・サルビア五十本▶松岡勝(陰地)
- (ふるさとセンターへ)
- 時計▶(株)大名建築設計事務所
- 時計・花びん▶(株)中島工務店
- 時計▶ホームセンター中島
- 金庫▶東京東白川クラブ
- 工事入札結果の公表
- ①は入札期日②は落札金額
- および落札業者
- ▼日向本線道路改良工事
- ①六月二十四日②六千三百三十四万五千円、(株)立保土木
- ▼穴沢林道改良舗装工事
- ①六月二十四日②九百二十七万円、(株)立保土木
- ▼中出林道開設工事
- ①六月二十四日②四千三百五十四万円、丸登建設(株)
- ▼高旗林道開設工事
- ①六月二十四日②二千四百四十一万一千円、山田土建(株)
- ▼保岐ヶ洞林道開設工事
- ①六月二十四日②三千九十万円、(株)マルト土木
- ▼東白川村過疎高齢者福祉センター建設工事
- ①六月二十四日②二億五千二十九万円、(株)中島工務店

満1歳



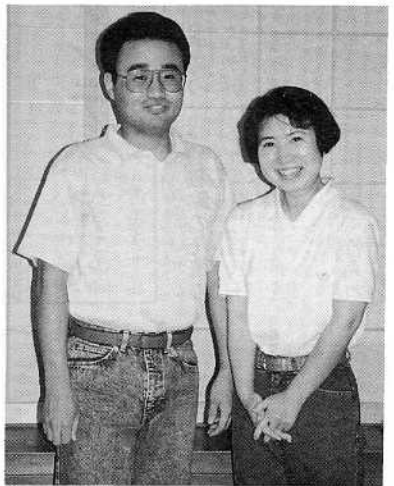
▲高井 紗代ちゃん
(三郎さん・恵里子さん二女=黒淵)



◀中島 直紀くん
(清彦さん・佳美さん長男=平)

ふれあい広場

新婚さん♡ ■ワン・ショット■



この写真は引きお二人に進呈します。

安江林さん宅に林家からのお嫁さん？と言うのは、下の親田の安江正明さんの奥さん節子さんの旧姓は、林。結婚式には司会者が、困ってしまつたというエピソードの持ち主。加子母上区出身の節子さん、嫁いで来た時、驚いたことは、近所に若い夫婦が多いことだそうです。若妻会で村内巡りに参加して友達の間が広がったとのこと。

正明さんは、知人に紹介された節子さんを一目で気に入ってしまい、それから一年間、三日と空けずひたすら通い夫したそうです。

節子さんは、高校卒業後、一昨年まで、岐阜で縫製の仕事のかたわら洋裁の学校に通うほどの頑張り屋さん。現在もそれを生かし内職をしてみえます。まさに内助の功。

正明さんの優しさに引かれたという節子さん、子供は、二人希望とのこと。素敵なカップルの誕生です。

ふるもとのぼ

29

☆はげみず

連載中の「跳ね回る動詞」をちよつと中断して、今月は「はげみず」を取り上げました。

「はげみずあでんこと」にや、ええてんきにやならん」。梅雨の時期、毎日うつつとうしい日ばかりで、雨に濡れる農作業が続くときなど、晴れの日を待ちこがれます。梅雨の終わりごろは特に一日も早く夏の空になることを望むのです。そんなとき、お年寄りから聞かれる言葉がこれです。かな書きでは読みづらいでしょうが、「はげみずが出ないことには、いい天気にはならない」ということです。

ところで「はげみず」とは一体何のことでしょう。

陰曆七十二候(五日を一候とし、三候を一气とし、六候を一か月とします。要するに一年を七十二分して気候の変化を示すものです)の一つに半夏生があります。夏至から十一日目で、

連載中の「跳ね回る動詞」をちよつと中断して、今月は「はげみず」を取り上げました。

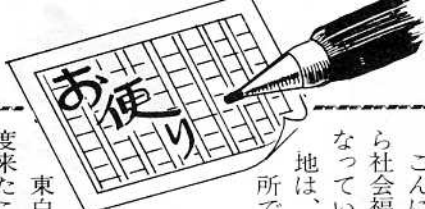
毎年七月の一日または二日に当たります。「はげみず」の「はげ」は、この「はんげしよう」が「はんげ」と略され、さらに「はげ」に変化したものです。したがって「はげみず」とは、七月の一日か二日ごろ、半夏生のころに出る大水のことをいいます。

梅雨の終わりごろは天候がいつまでもぐずぐずするものですが、一旦、大雨が降ると、からつと夏日になることが多いので、こういう言葉が生まれたものでしょう。

ちなみに、半夏生のころに出る大水のことを広島県や大分県では「半夏水」というそうです。また、熊本県のある地方では、東白川村と同じく「はげみず」といいます。

さて来月からは、また「跳ね回る動詞」を連載します。





度来たことがあります。ちょうど夏まつりの準備の追い込

東白川には昨年の夏に一度来たことがあります。ちょうど夏まつりの準備の追い込

思えば遠くへ
来たもんだ
こんにちは。私は、四月から社会福祉協議会でお世話になっている上林香です。出身地は、富山県八尾町という所です。仕事も車の運転もまだまだ、「若葉マーク」で迷惑をおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願いします。

へびに出合わないよう願いがら外を回っております。また知らないところも多く、抜け道

最近、村内めぐりを兼ねて、

みの時期でした。あちこちで鮮やかなオレンジ色のTシャツを着て、一つの目標に向って忙しいに作業しているみなさんの姿が、印象に残っています。その時は、研修ということでわずかに二週間でしたが、たくさんの方々に本当に親切にしてください、そのことがこの東白川へ来ることになった大きな理由の一つとなりました。



いつも笑顔のハリキリ娘

を見つけては驚く毎日です。先日、初めて朴葉ずしをいただきます。噂に聞いていたとおりとてもおいしかったです。これからも徐々に村の味に慣れ村の雰囲気を感じ、一日も早く村民としてみなさんのお役に立ちたいと思います。

「当時は、蚕と併用してやっております。養蚕をやれば食ってはいけなくなる状態だったのでお茶を植える時には、桑の木の間に植えたもんです。作業は、全て手作業、蚕と重なる時期は、朝も暗いうちから、夜中の十時十一時まで働いたものです。組合の工場の方も、静岡の方から

お茶の生産を本格的に始めたのは、昭和二十三年頃からだそうで、そのきっかけには、少数グループで始めた「白川製茶協同組合」のことがあるそうです。その当時のことを懐しそうに話して下さいました。



この日は雨、外に出られず残念！

ほとんどないそうですが、花の栽培や草むしりなど、元気に外に出る毎日です。



松岡 聡くん

(安幸さん・美香子さん三男=陰地)



神戸奨さん(平)宅で咲きました。

夏の風物誌
紫陽花の原理と言われる、このガクアジサイ。ちよつとだけ紫陽花よりも風情がありますね。

働くお年寄り
我が生涯
これ一筋
農業

買ってきた中古の機械は、あったものの、ほとんどが手作業、お茶を入れる袋まで自分、自分で作りました」と語られる。

「百姓の相手は、何と云ってもお天道さまやで」と元気に語って下さったのは、栃山の加藤公一さん(84)。

現在では、お茶農家をやっておられる加藤さんですが、若い頃は、食べるためでも作られたそうです。

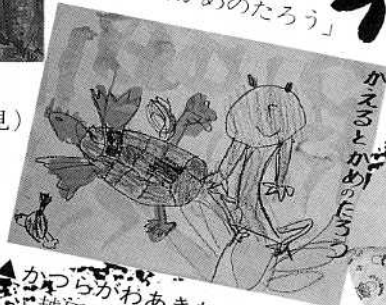
煩った気管支が、持病のようになってしまうため、健康には人一倍気をつかれたそうです。今でも医者に薦められたという体操は欠かさないとか。

「趣味は、働いて体を動かすことです」と笑顔で話される加藤さん、今は、お茶の方も息子さんに譲って、畑に出ることもほとんどないそうですが、花の栽培や草むしりなど、元気に外に出る毎日です。

わたしの作品

「かえるとかめのたろう」

▲東白川小学校 5年生
五十川美奈さん(久須見)
和紙を使って
「おじぞうさまの
おそなえもの」



かつらがわあきちゃん(日向)
越原保育園



▲東白川中学校 2年生
安江延枝さん(日向)
形と色に変化のある
平面構成



広報文芸

俳句

鉄線の色濃き花へ夕への風
霜害の桑伐り蚤飼う準備
整枝して眼鮮やかに青茶園
ふるさとの母なる山の笑いけり
想い出を小径につまり初つばめ
登山児の列を迎へて花こぶし
おぼろ月窓辺に残業つゞけおり
温む水あり小さき命あり
霜の朝茶園に眉をしかめ佇つ
風光る川面釣り人腕競う
彼の雲よ去るな春霜兆す夕

あなたの作品をお待ちしています。投稿は、奇数月の二〇日までに西洞河田重喜あてにお寄せください。

狂俳

嬉しがり 土俵へ投げた声高い
評 小兵の技が光る金星 早瀬 勇造(神付)

立夏 冷しそは屋が客寄せる
評 うの花陰にホトトギスの声 河田 重喜(西洞)

伸す腰 緞の柄 とんぼに借してある
評 畑へ届くお茶と草餅 早瀬 勇造(神付)

立夏 黒い茶畑に吐息がつからい
評 窺の水も濁れて音なし 加藤 公一(栃山)

立夏 野良着一枚脱ぎすてる
評 汗ばむ肌を撫でるそよ風 安江須美代(平)

今回の題は「インスタント」「やれやれ」「知らん顔」一題二句づつ募集します。日本一短い作句狂俳にあなたも挑戦してみませんか。投稿は、奇数月の二十日までに陰地安江水吉宛にお寄せください。

こぼれ話



め期待はしていなかったが、予想どおり午前中は訪れる人は二・三人、午後には人が集まりはじめ、もしかして?.....と顔がほころんでくる。

うれしかったお客さんは江南市からの六〇歳前後のご夫婦、「看板によってかっせと書いてあったので!」と言って約三〇分話をして、白川茶を沢山買って、「また来るわ」と帰っていかれた。

皆さんの期待を集めて建設されていた東白川村ふるさとセンターが六月二十二日に竣工しスタートした。

このふるさとセンターには、企画が事務所を置き、村の特産品の販売を行っているので、七月から日曜日も営業することに、早速、先日の日曜日から勤務について、日曜営業はじめてのた。

「また来るわ」を聞いたが、良い意味の「また来るわ」にしたい。

また、新聞で見たと言って隣町から家族で寄られ、品数の少いののに当惑され、「また来るわ」とクッキーを買って帰られた。今度は、若い女性が寄られ、「馬瀬村へ行く道をおしえて下さい」、買物でないので少しがツカリしながら、いつもよりていねいに説明した。

続いて、三人づれの青年が入口に立つなり「なんや、喫茶店やないぞ」と言って立ちさる。村内の人も、家族づれで館内見学を兼ねて買物にこられ「また来るわ」と帰られる。

この日、ほとんどの人から、「また来るわ」を聞いたが、良い意味の「また来るわ」にしたい。